

123 昭和時代 日中戦争(近衛内閣)

わんころ騒動!

第1次近衛内閣 盧溝橋事件 国家総動員法

< 近衛文磨 内閣 > (挙国一致内閣)

近衛は昭和のカリスマです

新聞家の五撰家筆頭・近衛家という血筋。
ことあるごとに国民にラジオで語りかける最初の総理。
軍部とも政党とも両方と関係が良い政治家。
国民は今の政党には呆れているが、軍部政権も望まない。
でも農村問題に一生懸命なのは軍部だと共感。国民は迷っていた。そこへ軍部とも政党とも関係がよい近衛が登場。国民は熱狂的に支持しました。

1937.7.7 盧溝橋事件

北京郊外の盧溝橋で、日中両軍が偶発的に衝突しました。
石原莞爾の計画だった柳条湖事件と区別しましょう。

当初、不拡大方針 盧溝橋では停戦成立

1937.8~11 第二次上海事変

日本水兵が殺害されたのを機に増派

主戦場が華北から蒋介石の地盤の南部に移りました。
日本兵も4万人が戦死する大苦戦、本格的な日中戦争に。
※満州事変直後に第一次があり。

→ **日中戦争** 勃発(日支事変)

日本も中国側も当初 宣戦布告せず

アメリカの 中立法 の適用を避ける
ことを日中両国が望んだため。
(結果)戦争ではないので、賠償金請求できず。

1937.12 首都南京占領

中国民間人が多数殺害される南京事件が発生。

1937.12 首都を内陸の **重慶** に移転

1938 近衛声明

第1次 国民政府を相手とせず

→ 汪兆銘 政権の樹立を支援

第2次 東亜新秩序声明

事変だから賠償金も取れない戦いが長期化、国民疑問、そこで(東亜新秩序)をもたらすための戦いなのだと声明。
これはアメリカからすれば、従来の秩序(九国条約・ワシントン体制)を否定するつもりかとなりますね。

結果→①トラウトマン和平交渉失敗→戦争長期化

②米英との関係悪化

→米英、援蒋ルート で支援

1938 重慶大空襲

< 近衛①内閣の内政 >

1937 企画院 設置(戦時統制経済の司令塔)

1938 国家総動員法

政府に、議会 の承認なしに戦争に必要な
物資や労働力を動員する権限を与える授權法。

1938 電力国家管理法

